

< 中学部研修 > 執筆：南河内地区

テーマ

## あの子も この子も とびつきたくなる実践交流会

### はじめに

中学部では、令和3年年度末に府美研所属各中学校にアンケートを依頼し、208名から回答していただいた。その中の「研修テーマとして取り上げてほしいもの」という質問に対して回答が多かったものが「こどもの興味や意欲を喚起する題材例などの紹介の講習会」「こどもの作品の評価についての講習会」である。そこで、令和4年度中学部夏季研修会のテーマを「あの子も この子も とびつきたくなる実践交流会」とし、中堅教員の実践発表や参会者の授業実践交流、3観点での指導と評価についての意見交換、指導助言をいただく場を設けた。また、令和3年年度末実施のアンケートについて前中学部部長の宣先生を含む夏季研修実行委員で行った分析の結果についての報告を行った。

### 研修の様子

夏季休業中とはいえ部活動指導や各種研修等で多用な中、当日は6地区17名が参会して中学部夏季研修会を行うことができた。

「基調提案」は中学部部長の中島先生が行った。府美研の成り立ちから、現在の中学校美術科担当教員の困り感について話し、令和3年年度末アンケートの分析からみえてきた府美研や中学部の今後のあり方から、連絡・連携・発信・協働の重要性について確認した。

「中学部アンケートから見えてきたもの」は前中学部部長の宣先生が行った。アンケートを依頼した286校中、有効回答があった208名分からの分析について説明を行った。まとめとしては、「調査対象から、中学校美術科教員の年齢層は20、30代が6割弱、経験年数20年未満が8割。つまり比較的若い年齢層が多い。また、若手・中堅に限らず全体の8割強が1校に1人体制。そのため、こどもの興味を惹く題材や、GIGA スクール構想といった時代の流れへ対応するにも孤軍奮闘の状況。評価や教科書の活用にも困り感が伺える」ということがあげられた。

また、府美研としては、「今後の研究テーマ、研修会を通して、これらの課題を解決することが求められている」ということを確認した。なお、全体にわたる詳細な分析は、府美研HPに当日のスライドを限定公開している。(パスワードは各地区責任者・市代表より連絡がある)

「中堅教員の実践発表」は7年目教員である中野先生が自身のこれまでの実践をふりかえり、発表を行った。美術部などで生徒と共に題材を考えてきたこと、授業を通して生徒同士のつながりや関わりあいが見えていく様子や、既に学習した内容を応用して次の学習の場で生かす「確かな学び」などについて、これまで挑戦してきたことや達成感、また反省からの新たな課題設定を交えての発表となった。



基調提案 羽曳野市立河原城中学校  
中島 嵩 (中学部部長)

司 会 高槻市立第一中学校  
宮地 さおり (中学部副部長)

報告者 大阪教育大学附属天王寺中学校  
宣 昌 大 (前中学部部長)

指導助言 大阪教育大学表現活動教育系美術  
准教授

実践発表 摂津市立第三中学校  
中野 由里

渡邊 美香

---

「参加者交流会」は、前半に3～4人1グループの少人数グループで授業実践の交流、後半に各グループからの報告を行った。限られた時間ではあったが、参会者一人ひとりがこれまで題材開発や授業実践、生徒とのやりとりの中で考えてきたこと、悩んできたこと、課題にとびつくこどもたちの様子などについて熱心に語り、聴くことができる交流の場となった。もっと話したい、聴きたい、交流したいという余韻が残り、今後も実践交流の機会を設ける必要性が感じられた。なお、当日配付資料を用意して下さった先生は府美研HPへの限定公開を快諾して下さった。資料についてはHPで案内している。(パスワードは各地区責任者・市代表より連絡がある)

「指導助言」では大阪教育大学の渡邊准教授が、中野先生の実践発表や参加者交流会の様子などに基づいて、「自分がつくった作品を捨てるこどもを育てていいのか」という投げかけから、いくつかポイントを押さえて授業づくりの視点を助言していただいた。「こどもがやりたいと考えている様子、心が動いている様子」をみとること。「こどものやりたいと、教師の教えたいことのバランス」が重要であるということ。協働学習では「ミッションを与える」ことで、互いを認め合う社会性を身につけられること。「自己の学習をふりかえる活動」がこどもの自覚に役立つこと。また、それを「次の授業にどのように生かしていくか」を考えることが重要であること。「ICTを活用した作品のプレゼンテーションの機会をつくる」ことで、自分たちが何をしようとしているか振り返り、伝えやすくなること。そのため、「自分のアイデアの面白さや、友達の作品のよさを発見する雰囲気生まれる」こと。教師は「こどものこだわりをしっかりと評価すること」が重要であるということ。そして、こどもが「自分がやってきたことに興味・価値をもっている」ならば、作品を捨てずに持ち帰るのではないかなど、参会者にとっても、自身のこれまでの取り組みをふりかえり、気づきと改善を考える手がかかりとなった。

## 今後に向けて

令和4年度の夏季研修は、事後のアンケート結果をみても参会者にとって大いに満足できるものであった。また、「中学部アンケートから見えてきたもの」の結果を踏まえても、「実践交流」の機会は今後も設けたいものである。中学校美術科担当教員の困り感や困難な状況から令和元年に始まった中学部の研修であるが、まだまだ発展途上である。今後は実践交流や実践発表、実技講習などバランスを考えて、夏季・冬季を目安に年2回の実施を行っていききたい。その際には、府美研7地区の責任者など代表を中心に企画・実施し、研修での学びや研修そのものの運営手法などについて共に考え、広く各地区に共有・還元できるようにしたい。

府全体の美術教育の向上発展にむけて、今後とも会員先生方のご協力をお願いします。